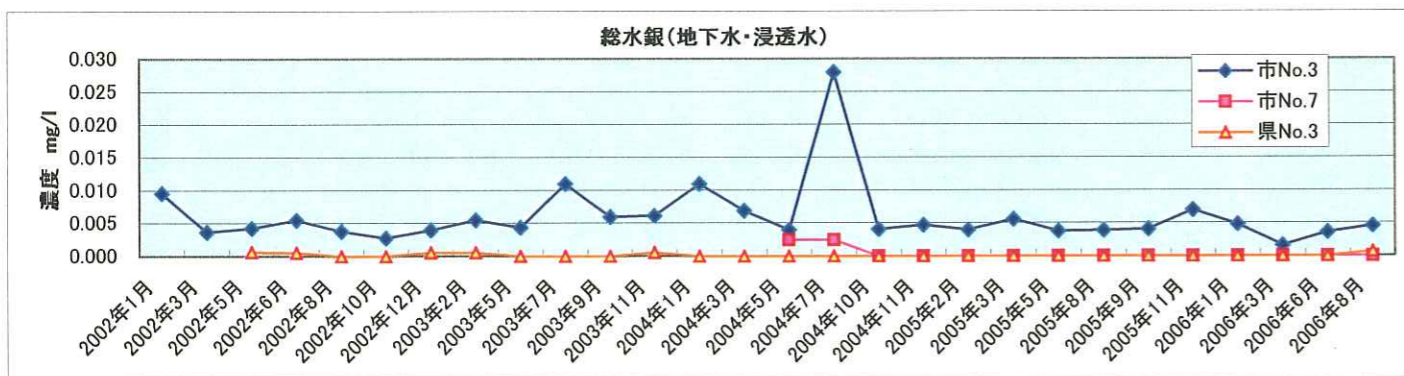
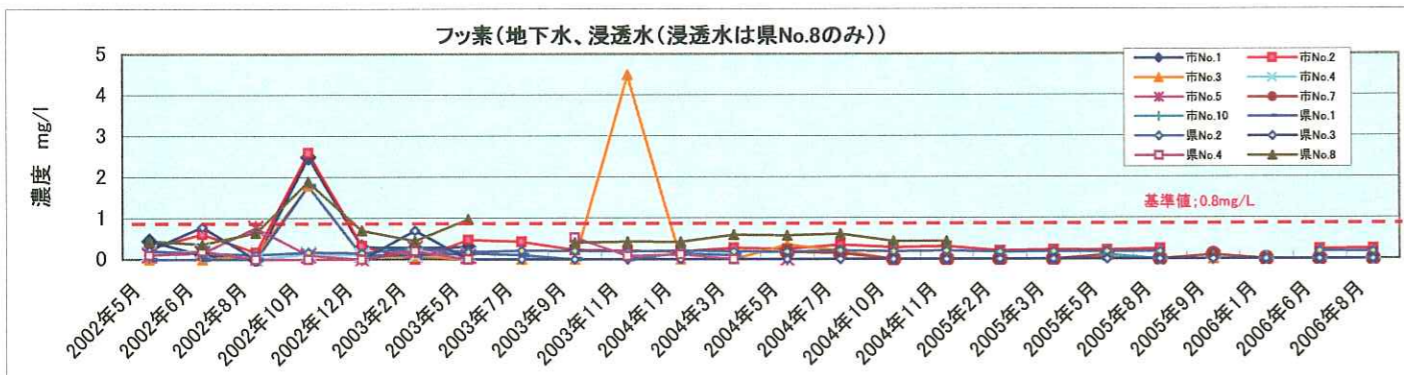
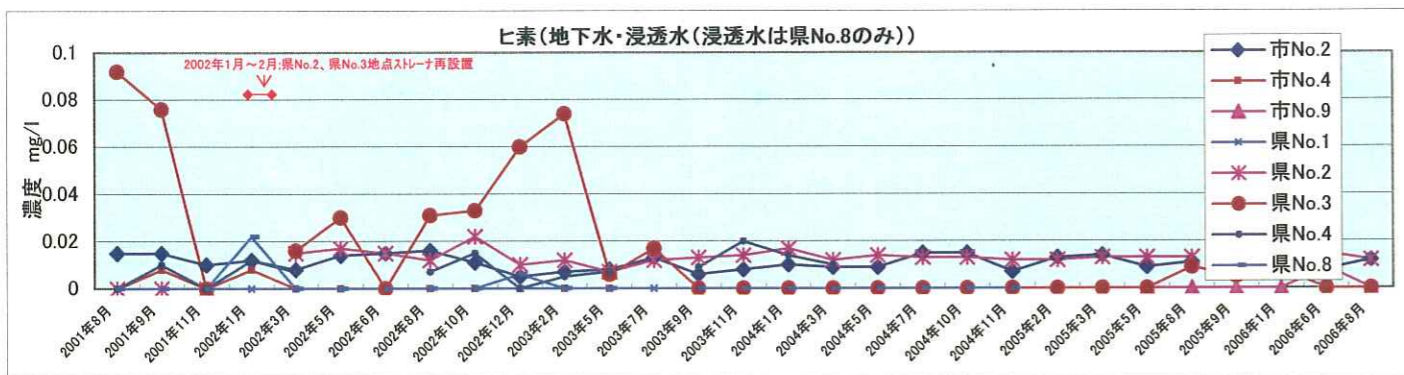
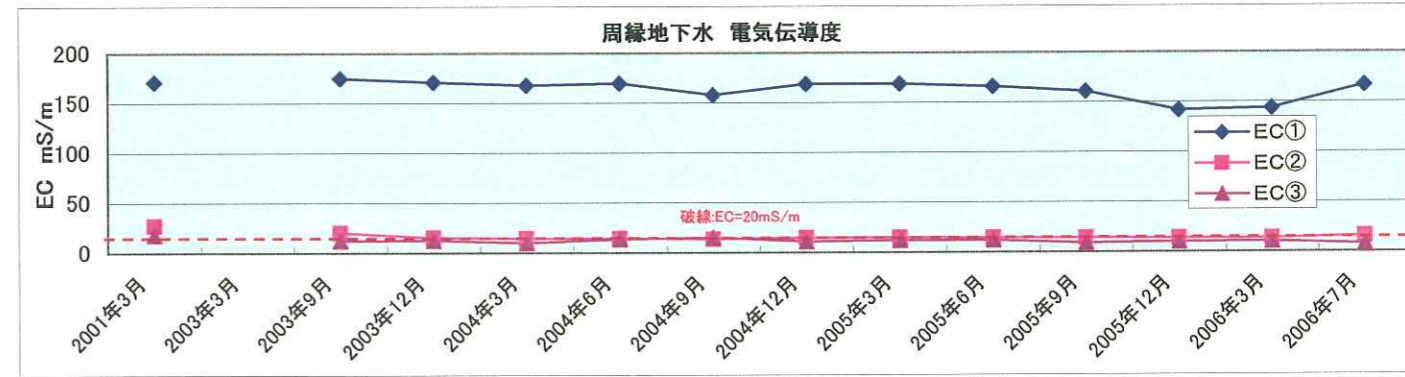
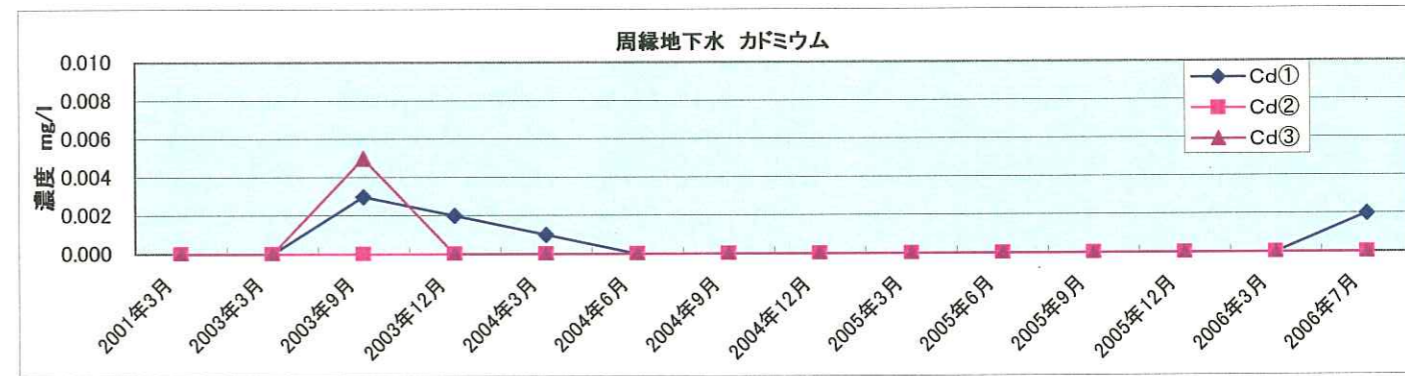
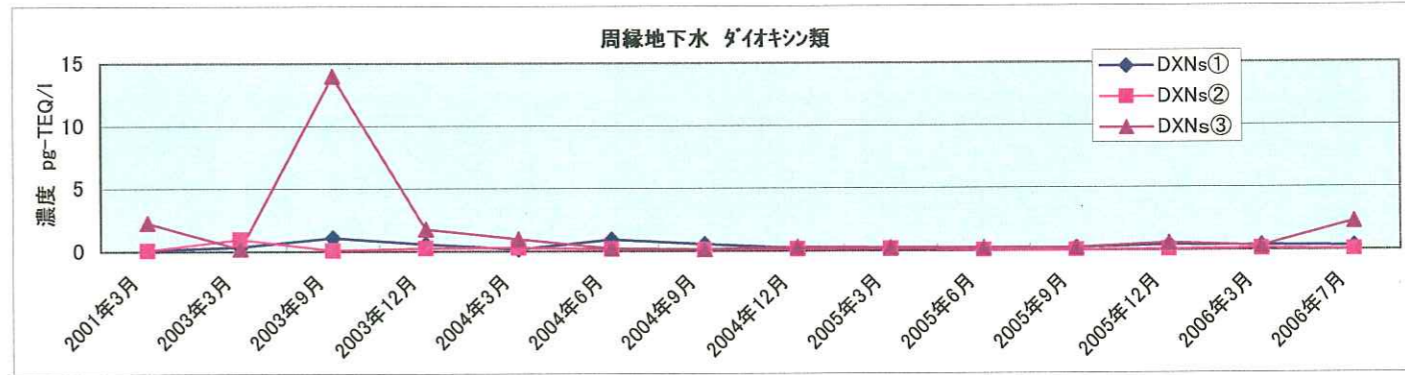
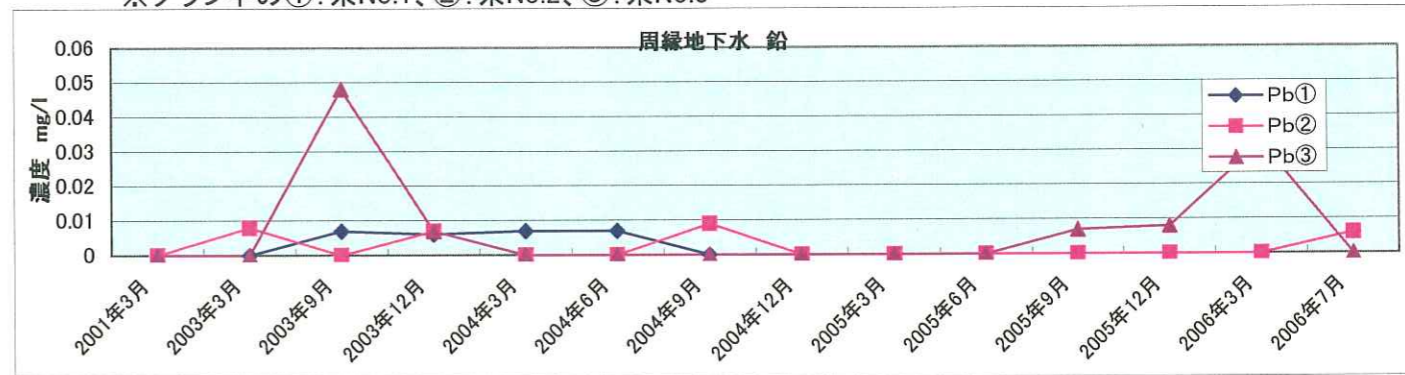


2.観測井戸県No.2および県No.3の状況について



※グラフ中の①: 県No.1、②: 県No.2、③: 県No.3



考 察	<p>&lt; 県No.3の状況 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒ素の経時変化より、県No.3地点以外は概ね0~0.02mg/Lの濃度範囲を示している。県No.3地点も2003年5月以降は0.02mg/L以下の濃度を示す。</li> <li>フッ素は、概ね0~0.8mg/Lの濃度範囲を示している。1.0mg/L以上の濃度を示しているのは、2002年10月で5地点、2003年11月の市No.3地点のみ。</li> <li>電気伝導率(EC)の値は、各地点で違いがあるものの、概ね横ばい傾向で推移し、季節変動は見られない。</li> <li>ヒ素、総水銀、鉛、フッ素、ダイオキシン類、カドミウムと電気伝導率(EC)との関連性は見られない。</li> <li>EC値は、Ks1+Ks2層とKs2層のみの地点で差が見られる。Ks1層の地下水のみのEC値が不明であり、確認する必要がある。</li> </ul>		<p>&lt; 凡 例 &gt;</p> <p>Ks2層 : 県No.1、県No.2、市No.3、市No.7</p> <p>Ks1+Ks2層 : 県No.3、県No.4、市No.9</p>
	<p>&lt; 県No.2の状況 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒ素、鉛、フッ素、ダイオキシン類と電気伝導率(EC)との関連性は見られない。</li> <li>県No.2の観測井の構造(スレーナ深度)はKs2層のみであるが、県No.4(Ks1+Ks2層)の水質(pH、EC)とほとんど有意な差がない。地下水の上流側でKs2層対象の観測井が他にないため、データの信頼性は低い。</li> <li>処分場南東側(地下水の上流側)においては、県No.2地点(Ks2層)のみで鉛が検出されている。しかし、比較対象の観測井が少なく、地域性としての評価ができないため原因は不明である。</li> </ul>		

3. ヘキサダイアグラムの結果図

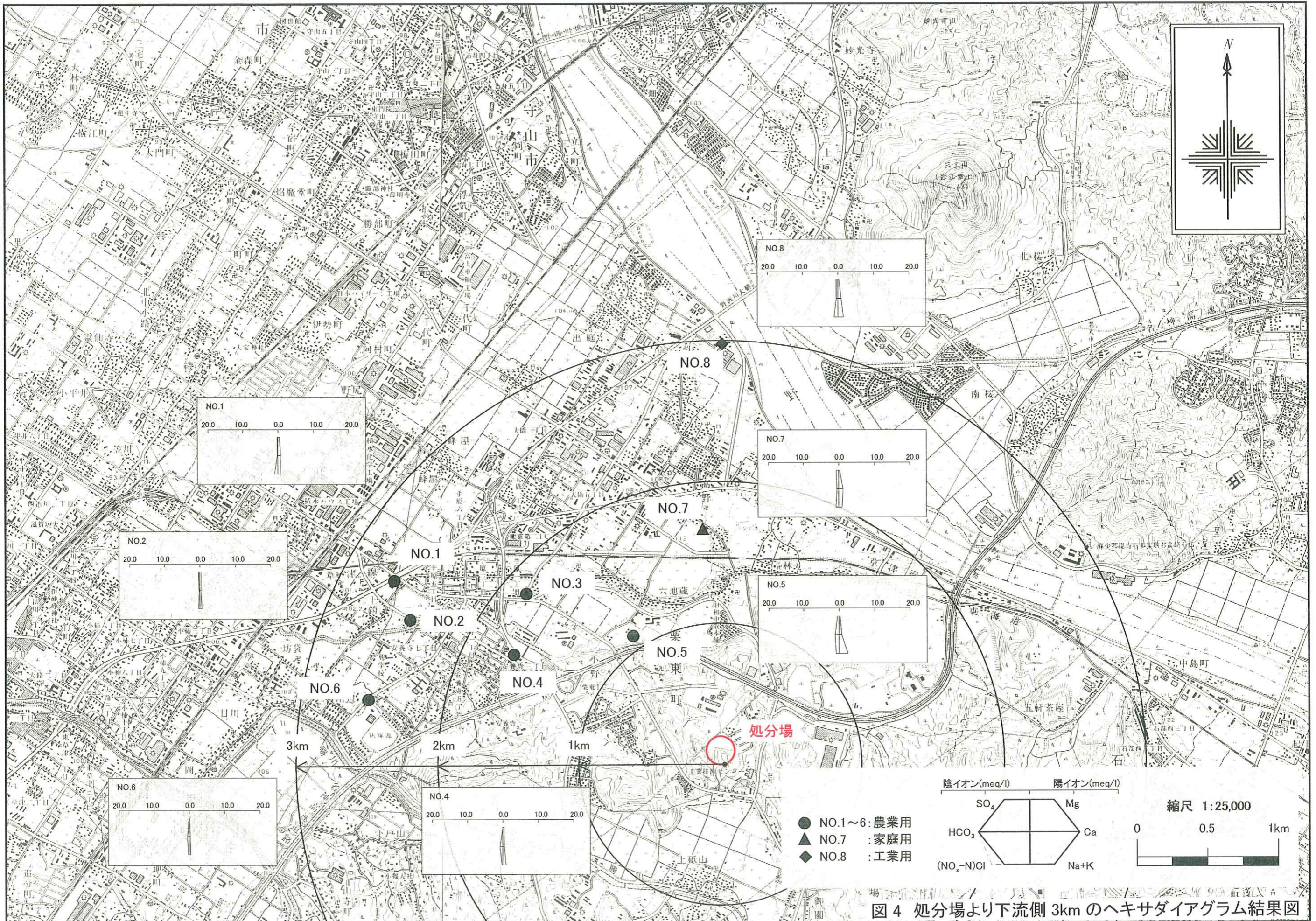
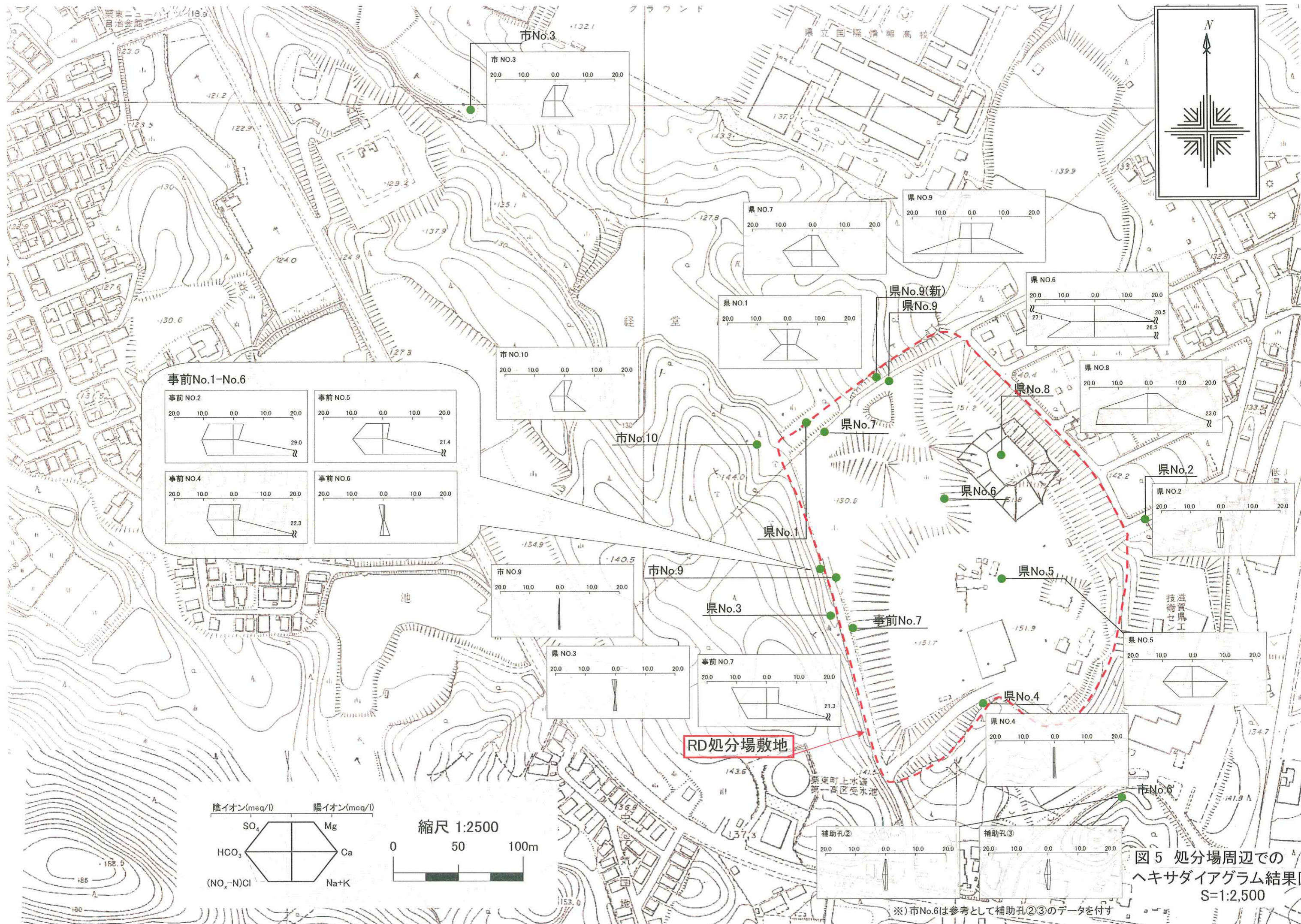


図4 処分場より下流側 3km のヘキサダイアグラム結果図



事前No.1-No.6

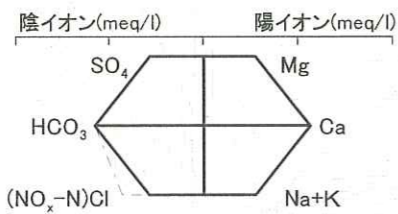
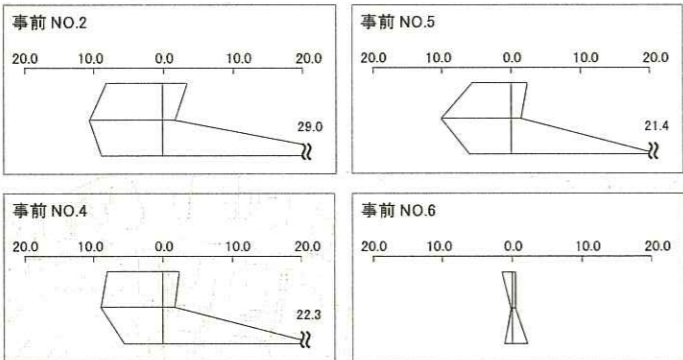
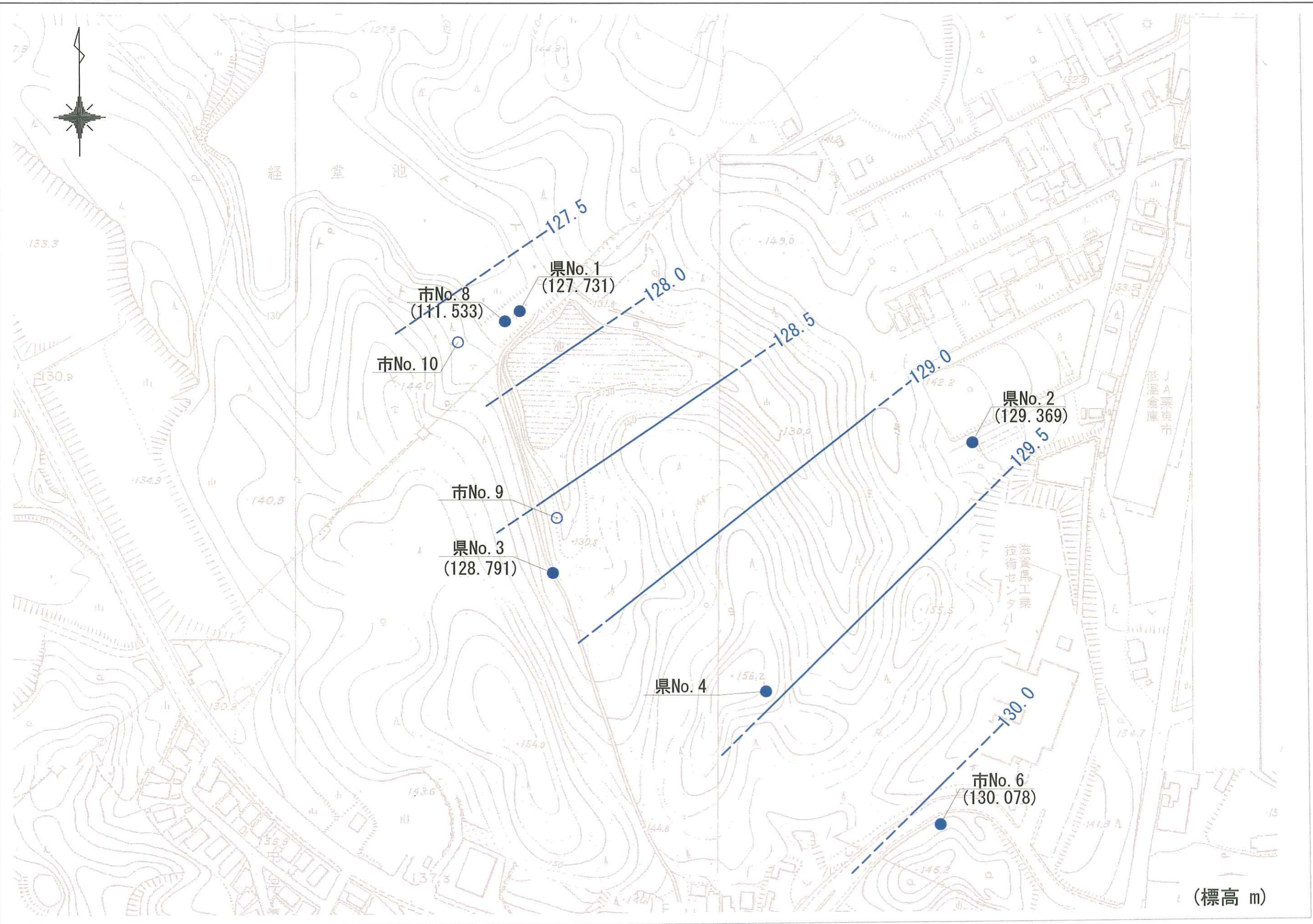


図5 処分場周辺でのヘキサダイアグラム結果図 S=1:2,500

※)市No.6は参考として補助孔②③のデータを付す

4. 地下水流向



※ 注1. 測定地点白抜き表記 ○ はこの時点では未計測。

測定日時 2004年6月1日 (12:00) 縮尺 S=1:2000

図6 地下水位コンター図(2004年6月1日)